

## ■ 高齢者訪問まとめ 守谷市南部地域包括支援センター

訪問期間:令和5年6月1日(水) ~ 令和6年12月19日(火)

### (1) 高齢者訪問について

・対象者の自宅を訪問し、住環境や生活状況について実際に確認することにより、1か月以内に再訪問が必要と判断された19件について、早期支援につなげることができた。また、継続して訪問を実施したことにより、地域包括支援センターが訪問を行うことについて理解を得られ、生活状況などの聞き取りがしやすくなってきている印象があった。

### (2) 訪問内容について

・対象者の訪問記録や支援経過記録を確認して情報収集した上で、高齢者訪問を行った。家族構成や生活状況の変化がみられた方には、本質的な不安や葛藤にもアプローチすることを心掛けた。

・夏の時期には、熱中症予防のパンフレット、その高齢者の状況にあわせたフレイル予防のパンフレットを配布したが、それ以外にも対象者の生活や健康へのリスクを察知し、インフォーマルサービス等を周知することでリスク回避できるように支援した。

### (3) 民生委員との連携について

・今年度は、民生委員と同行訪問が大幅に増えたことで、高齢者の受け入れもよく、普段の会話の様子などを見ることができた。

・包括職員と民生委員の連携を知り、高齢者の警戒心を和らげることに繋がったことで安心して受け答えができていた方もいた。

・高齢者に対しても、地域住民の身近な相談相手や見守り役として民生委員について周知することにも繋がった。

### (4) 再訪問について

・フォローA(至急対応)の1件について

膝痛から歩行状態が悪化している状況(急性期)で支援が必要だったため

・フォローB(再訪問1か月以内)の18件について

多くは、みずき野地区と高野地区での体調確認や認知機能低下がみられたため

・高野地区では認知機能が疑われる独居、みずき野地区では配偶者の一方に認知症が疑われる高齢世帯が目立った。

・再訪問の対象者の割合は各地区で概ね1割程度であり、大きな差はみられなかった。

## (5) 次年度に向けて

### ① 高齢者訪問の内容について

前年度に比べ、健康状態についての心配事や免許返納後の交通手段等の不安について話を伺うことが多かった。それぞれの地区別の交通手段など高齢者が置かれている生活環境などにも注意を払い、高齢者が抱えている心配事を引き出せるような言葉かけや投げかけを意識しながら訪問していきたい。

過去の記録から対象者の生活状況や病歴を確認してから訪問したことで、前回の状態からの変化に気づくことができ、再訪問の必要性の判断となった。来年度も継続していきたい。

### ② 訪問体制について

今年度は包括の人員体制から同職種同士で訪問を行った。その結果、再訪問の必要性について職種の考え方の違いから偏りがでてしまった。

来年度からは、高齢者の支援課題に応じた専門職の組み合わせを検討して訪問を行うようにしていきたい。また、今まで積み上げてきた情報等から推測される課題については、訪問前から包括内でカンファレンス等を積極的に行い、対応について検討した上で訪問して高齢者に最適な支援が行えるようにしたい。